

## 表紙によせて

大作 晃一

私のいる千葉県北部では、  
 コナラやイヌシデの林で、きのこを探ることが多い。  
 シーズンになると、イグチ、テングタケ、ベニタケなどの大型のきのこが生えてくる。  
 イグチでは、ヤマドリタケモドキ、ムラサキヤマドリタケ、  
 アカヤマドリ、スミゾメヤマイグチが四天王といったところ。  
 ムラサキヤマドリタケは、今でこそ普通種とわかったけれど、  
 以前はなかなか見つけることができなかった。

ヤマケイのカラー名鑑では、伊沢さんの圧倒的な写真。  
 きのことしては珍しい紫色の彩り。傘には黄色の模様が入り、  
 ほとんど紫のものから全体が黄色になるものまでバリエーションに富む。  
 おまけに、食は最高をあらわす三つ星マーク。  
 「口あたりは希少価値もてつだい、日本ではヤマドリタケモドキより格段上」とある。  
 ぜひとも見つけたいきのこだった。  
 房総の照葉樹林によくでかけ、いろいろなきのこに出会った。  
 しかし不思議なことに、いっこうにムラサキヤマドリタケを見ることはなかった。

房総からの帰りがけ、近所の公園に寄り道したら、  
 思いがけずすべり台の近くでムラサキヤマドリタケの群生を発見。  
 憧れのきのこが、なぜこんなちんけなところに。  
 うれしかったものの納得はいかなかった。

経験を積むうちに、  
 ムラサキヤマドリタケを近所の林で次々と見つけられるようになった。  
 残念ながら、もはやめずらしいきのこではなくなった。

シラカシ [白櫂]  
 福島県-新潟県以  
 西に分布する常緑  
 樹。葉の裏は、は  
 じめ絹毛が散生す  
 るがのちに無毛、  
 灰緑色。ウラジロ  
 ガンは、のちにロ  
 ウ質を分泌し、粉  
 白色となることで  
 区別する。



シラカシの殻斗  
 は、鱗片が着着し  
 た同心円状の環  
 が6~8個並び、  
 灰白色の微細な  
 毛が密生する。

ホオベニシロアシイグチ [頬紅白足猪口]

ムラサキヤマドリタケ [紫山鳥茸]